

平成30年度 佐井寺留守家庭児童育成室の検証結果について

令和元年9月

吹田市教育委員会

地域教育部 放課後子ども育成課

吹田市立佐井寺留守家庭児童育成室「はるのこ学級」（以下、「佐井寺育成室」とする）については、平成30年4月からこれまでの直営での運営から、株式会社セリオに業務委託している。委託期間は、平成30年4月から令和3年3月までの3年間である。

児童福祉法において、事業に必要な水準を確保するため、市町村による事業者への調査や命令等が定められており、運営業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下、「育成室」とする。）の運営状況に関して、過去からの推移を含め、放課後子ども育成課による検証を行い報告するものである。

～検証方法～

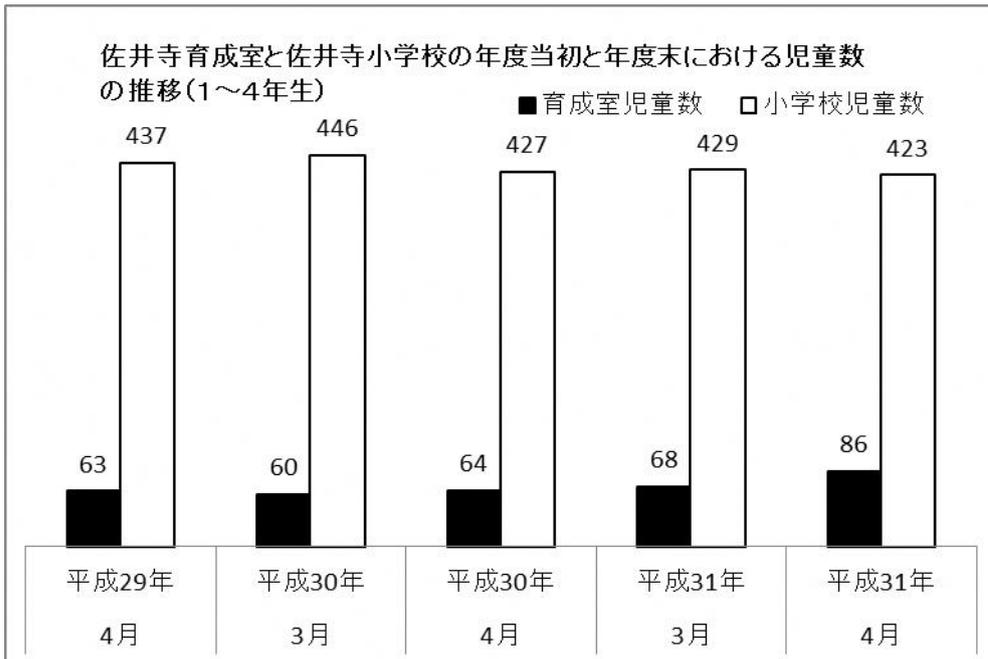
- 1 放課後子ども育成課職員 [担当事務職員、スーパーバイザー（S V ※元公立保育園保育士）] による現地視察（週1回程度）
- 2 保護者へのアンケート：委託初年度 年間3回、2年目以降 年間1～2回
- 3 事業者への聞き取り
- 4 チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

1 入室児童数について

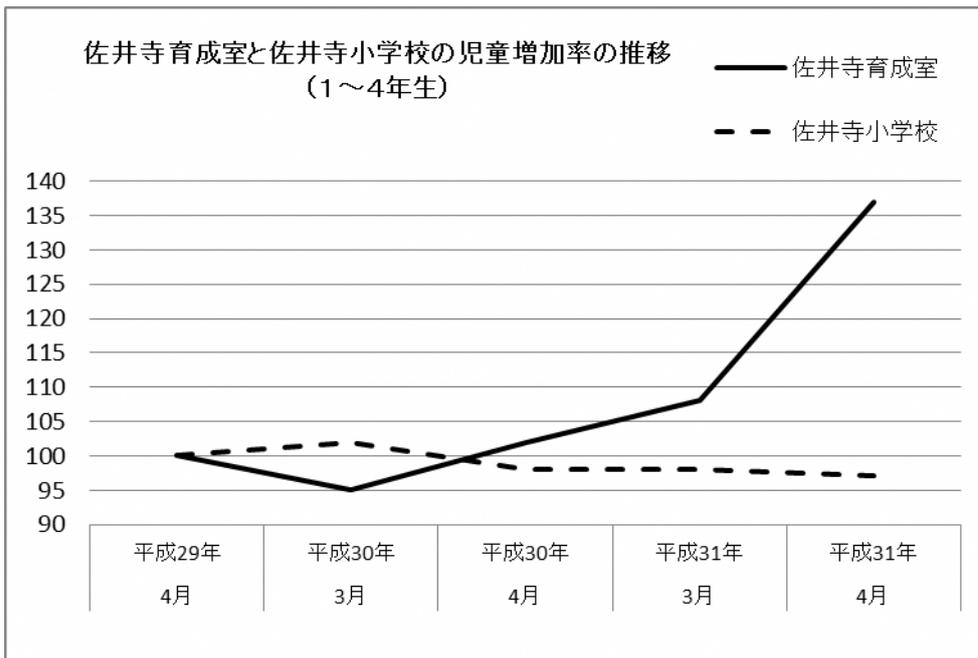
佐井寺育成室については、平成30年4月時点で64人在室（学年内訳、1年：19人、2年：24人、3年：14人、4年：7人）しており、うち配慮を要する児童（障がいを有する児童）が2名在籍している。2教室で運営しており、1室あたりの児童数は、32人となっている。児童数の規模としては、36育成室中8番目であり、育成室の中では少ない方である。

今後の児童数の推計は、小学校児童数はゆるやかに逓減する見込みだが、平成30年度は年度途中の退室者の減少や途中入室者の増加、また平成31年度に大きく入室児童数が増加（前年度比134%）したことからも、育成室の利用ニーズが高まってきている傾向がある。【表1・2】

【表 1】

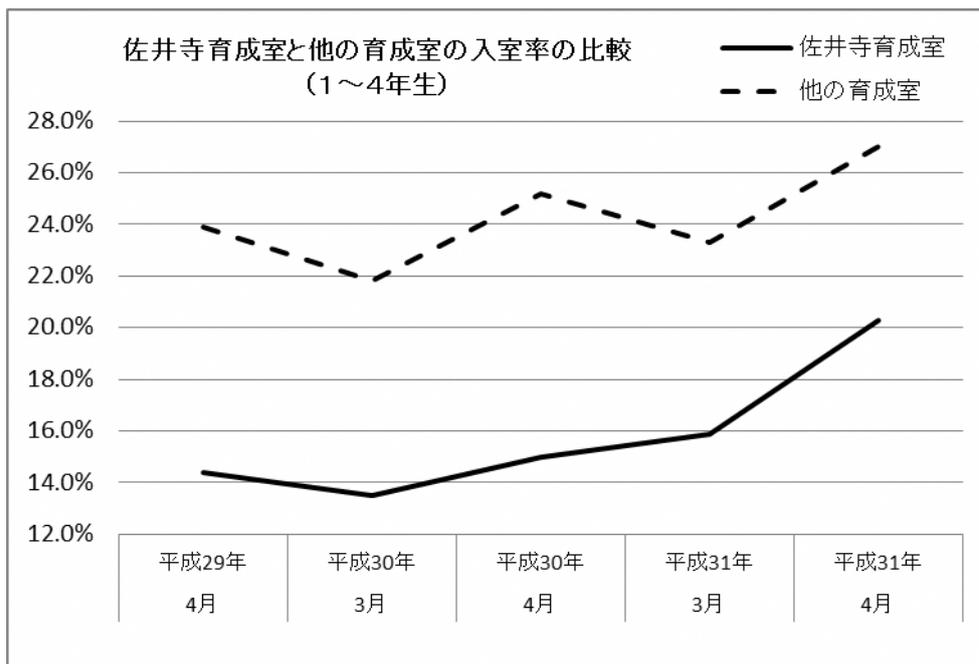


【表 2】



佐井寺育成室の平成29年度から平成31年度までの入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）は【表3】のとおりとなっている。佐井寺育成室の入室率は、他の育成室と比べておよそ10ポイント程度低い率で推移してきたが、平成30年度末及び平成31年度4月当初は、入室率が増加して約7ポイント差に縮まっており、この値からも保護者が民間事業者である現在の委託事業者による運営内容に不安をもっているため、入室を控えていることは読み取れない。

【表 3】



2 保育内容について

(1) 日常における保育の取り組みについて

佐井寺育成室の日常の保育の取り組みとしては、仕様書に沿って行われており、児童の健全育成への貢献は十分であると認められる。理由としては以下を挙げることができる。これらは特に目新しいものではなく、他の育成室でも行っていることではあるが、このような基本的なことを丁寧に行っていることが、児童の健全育成にとってとても重要である。

ア 児童の登室、帰室状況等の把握をしっかりとっている

育成室のホワイトボードを活用し、入室児童名のマグネットを用いて、登室、帰室状況や、早帰りの時刻、延長利用の有無等の情報を掲示している。これにより、入室児童や指導員間において、常に最新の登室児童の状況を共有し合うことができ、登室管理をしっかりと行える。

イ 連絡帳の確認がきちんとなされている

育成室の入口横には指導員の机が置かれており、児童が育成室へやってくると、まず、連絡帳を提出することとなっている。連絡帳は家庭と育成室をつなぐ大切なツールの一つであるため、連絡帳をいち早く確認し、児童の健康状態や早帰り（育成室を早退すること）等の予定を把握し対応することで、児童・保護者との信頼関係を損なわないようにしている。また、週に1、2回程度は指導員から児童の様子を連絡帳に記載するように心掛けており、保護者への情報発信もしっかり行えている。

ウ 班活動や遊びを通じた児童の集団作りを行っている

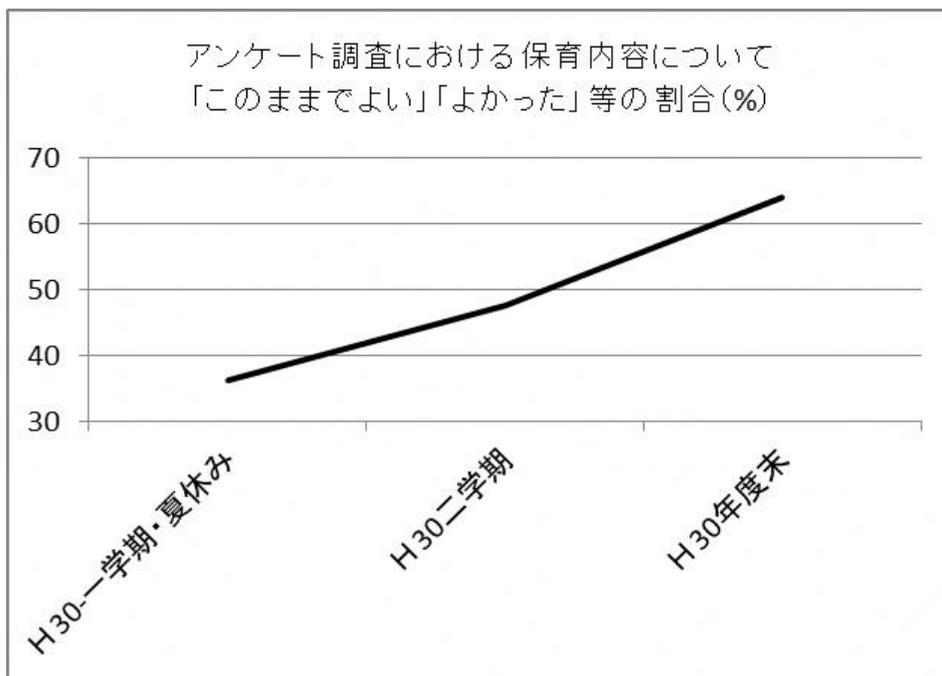
育成室での当番活動やおやつの時間などでは、異年齢で構成した班での活動を行い、児童の個性を尊重しながら、班で協力して、各自の役割を果たすよう促している。外遊びについても、指導員は児童を見守るだけでなく、ドッジボールやサッカーなどの集団遊びを組織し、児童の集団作りを積極的に行っている。また、輪に入っていくことが苦手な児童や児童同士のトラブルに対して、指導員からの声掛けや指導員が間に入るなど、友達関係の構築や広がり支援する姿勢がよく見られる。

(2) 保育内容に対する保護者の意見について

保育内容に対する保護者の意見については、これまで行った3回のアンケートの調査結果から、回答があった過半数の保護者は「このままでよい」や「よかった」等の回答をした保護者の割合が平成30年度1年間にかけて約28ポイント上昇しており、保護者からの評価が高くなってきていることが読み取れる。

平成30年一学期・夏休みのアンケートにおいて「このままでよい」の次に多かった回答である「子供たちみんなで行う取り組みをもっと増やすべきである。(21.3%[10人])」が、平成30年度末では5.1%[2人]に減少しており、また、一学期・夏休みのアンケートの自由記述に複数見られた「どのような取り組みをしているのか分からない」という意見が、平成30年度末ではそのような記述回答がなくなったことから、しっかりと保護者意見を保育に反映して集団作りにつながる取り組みを実践し、学級懇談会や学級だより等において保護者への周知も図ることができたものと推察できる。【表4】。

【表4】



(3) イベント（季節ごとのイベントやお誕生日会等）について

クッキング保育は夏休み期間中に週1回程度、お誕生日会は基本的に誕生日ごとに開催するなど、他の育成室と同程度にイベントを実施している。とりわけ他の育成室に見られない取組みとしては、塗り絵やけん玉などのコンテストの開催が佐井寺育成室の特色と言える。様々な内容のコンテストを毎月開催し、色々な児童にスポットがあたるような取組みを継続して実施することで、児童同士の発見や各自の自信に繋がっている。

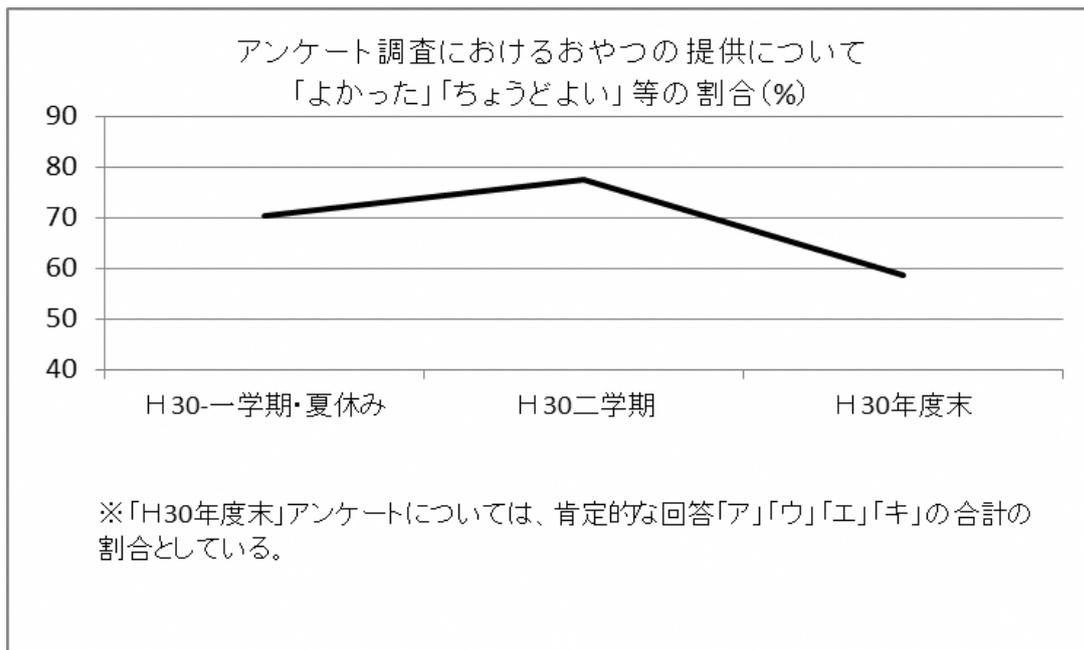
(4) おやつ提供について

佐井寺育成室においては、なるべくアレルギー未使用のおやつを選び、アレルギーを含むおやつを出すときには、アレルギーを持つ児童のアレルゲンとなっている原材料が含まれていないと確認できた別のメニューを提供している。なお、アレルギーに関して判断が難しいものについては、必ず保護者に連絡して提供できるか確認を取っており、万一の場合に備えて、あらかじめ保護者から主治医や緊急搬送先等を聞いている。提供方法についても、アレルギーを持つ児童がアレルゲンを持つおやつを誤って食べないように、分かりやすく別の皿に配膳し、指導員が確認した上で提供することで万一の事故を防止している。

(5) おやつ提供に関する保護者の意見について

アンケートの回答では、【表5】のとおり、おやつに関して「よかった」や「ちょうどよい」等の肯定的な意見が、一学期・夏休みと二学期では70%台と高い評価を得ていたが、平成30年度末では60%弱に減少している。平成30年度末のアンケートから、回答の選択肢をより細分化し、従来の5択から12択にした（自由記述回答を含む）ことで、より詳細な意見が聞き取れるアンケートに変更したことも影響していると思われるが、平成30年度末の回答結果を見ると、おやつの量に関して「量はちょうどよかった(13.7%[7人])」、「量は少なかった(5.9%[3人])」、「量が多すぎた(9.8%[5人])」と回答が割れており、また自由記述欄では「何をどれくらい食べているか分からない」や「一回どれくらいの量で何を食べているのか分からない」といった回答が一学期・夏休みアンケートから継続して見られることから、現在のおやつメニューや提供方法を保護者へしっかり周知する方法を検討する必要がある。また「袋菓子ばかりのおやつは止めてほしい(13.7%[7人])」という回答も少なからずあるので、保護者に耳を傾けて丁寧に意見をくみ取りながら、栄養価や腹持ち等の補食の観点や種類のバランス等の様々な要素を考慮したメニューの改善を図るなど、より良い運用方法を継続して検討し、実践していってほしい。

【表 5】



3 指導員について

(1) 指導員の配置について

佐井寺育成室の指導員の配置については、2教室での運営であるため、教室に配置する指導員が4名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が2名必要であるため、1日当たり6名の指導員の配置が必要であるが、きめ細やかな保育のため、独自に1、2名配置人数を多くして、1日当たり7～8名の指導員の配置を行っていた。勤務形態や保有資格等の内訳は、正規雇用の指導員4名で、それ以外は非正規（アルバイト）指導員であり、正規雇用の指導員が毎日育成室に勤務するのに対し、非正規雇用の指導員については、1週当たり2日～3日のシフトを組み、勤務に従事していた。保有資格としては、正規雇用の指導員は、小学校・幼稚園の教諭及び放課後児童支援員の資格を保有しており、非正規雇用の指導員についてもおよそ半数は、保育士や教諭の資格を保有している。

指導員間のチームワークは非常によく、様々な課題に直面した場合でも、主任指導員を中心として解決を図る姿勢が見られ、放課後子ども育成課の職員やSVとも積極的に連携や情報共有を図り、育成室の保育内容の充実・向上を図る努力を感じることができた。

(2) 指導員の児童との関わりについて

現在の委託事業者は、指導員と子ども達の関わりを重視しており、そのため、市の職員が佐井寺育成室を訪問した際は、頻繁に子ども達に声を掛けており、また、あらゆる場面で指導員が子ども達の輪の中に入るなど、児童とのコミュニケーションを多く図る姿勢が見られる。また、子ども達と関わる時間を十分に確保するため、連絡帳

の記入については、保護者からの連絡事項などに対する回答や日頃の児童の様子を記載する場合を除き、特に連絡がない場合はそのまま返却することとしており、保育時間中に指導員が机で事務作業に没頭をしている場面はほとんど見られない。

そのため、指導員と子ども達との信頼関係がしっかりと構築されており、場面の切り替わりにおいても、指導員の指示がスムーズに子ども達に入っている。また、喧嘩や悪戯等により指導員に叱られた場合でも、ふて腐れて飛び出したり、指導員に反抗して暴れるような行為も見受けられない。

子ども達は指導員を信頼しており、指導員は子ども達の心をしっかりとつかんでいるため、佐井寺育成室は賑やかに声が交じり合い、楽しい雰囲気を持った育成室となっている。

(3) 指導員に関する保護者からの意見について

平成30年度年間を通じてのアンケートにおいて、指導員についての設問がある。この設問は複数回答可としており、指導員に対して保護者がどのような考えを持っているかを聞く設問となっている。

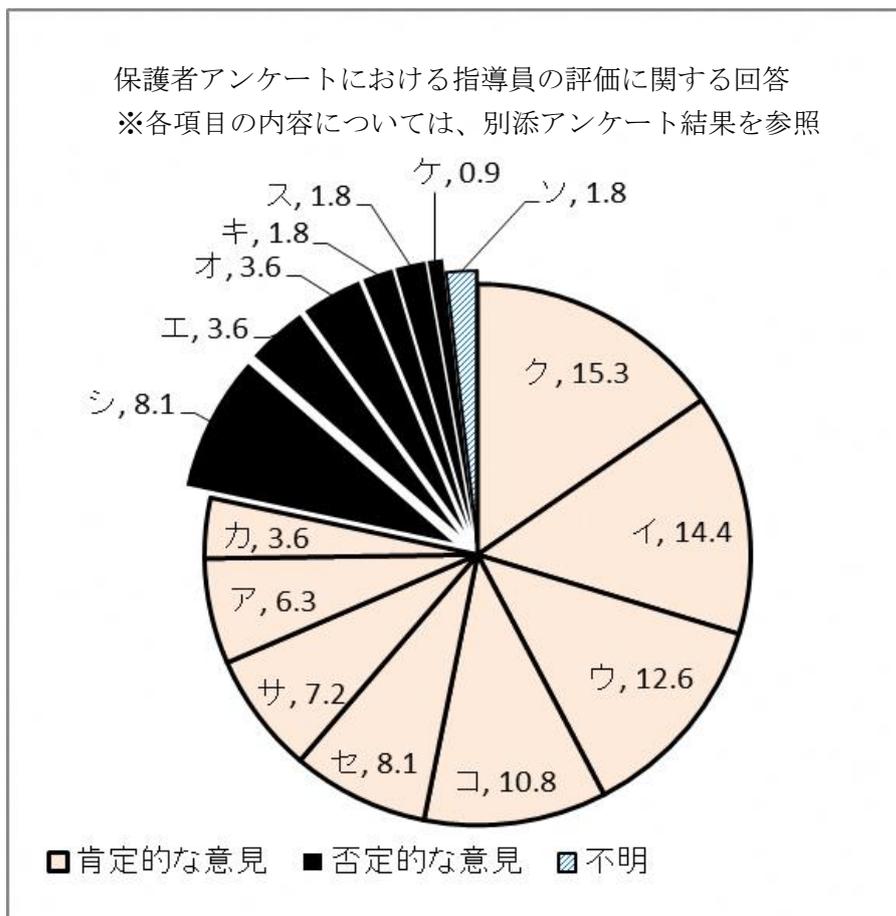
回答が多かった順に上位3つを挙げると以下のとおりとなっている。

- 1位…「いつも明るく、元気に児童や保護者と接することができていた」15.3%[17人]
- 2位…「指導員は児童の輪に入り、積極的に児童と関わりを持っていた」14.4%[16人]
- 3位…「連絡帳や電話などを使い、育成室での出来事を保護者に適切に伝えることができていた」12.6%[14人]

上位の3つの回答で全体の約42%を占めており、さらに指導員に対して肯定的な意見をすべて含めると、全体の約78%と中程度の評価となっている。

今後は、少数意見ではあるが、児童との関わりに積極性を感じられていなかったり、日頃の様子を知らせていないと感じている意見があるので、更に高い評価が得られるように期待したい。

【表 6】



4 総合的な評価について

(1) 放課後子ども育成課による評価について

放課後子ども育成課職員（担当事務職員、スーパーバイザー）による現地視察及び事業者への聴き取りによる検証による総合的な評価として、佐井寺育成室の運営については、以下の理由により高く評価することができる。

- 1 育成室では、入室児童が笑顔で楽しく活発に過ごしている。
- 2 指導員が常に子ども達とコミュニケーションをとっている。
- 3 連絡事項については、主任指導員、委託事業者、放課後子ども育成課の間で共有が図られており、組織だった運営が行われている。
- 4 育成室の運営では、直営育成室の取り組みの内容をベースに組み立てられており、新たな取組みは子ども達にとって望ましいのを取り入れていく姿勢が見られる。
- 5 保護者への情報提供の場として、懇談会を育成室全体・個人の両方開催しており、オープンな運営を心掛けている。また、保護者との意見交換の場にも積極的に参加し、保護者との連携の重要性を理解し、協力関係の構築に努めている。

また、項目を立てて記述することはなかったが、以下の事項でも高い評価をすることができる。

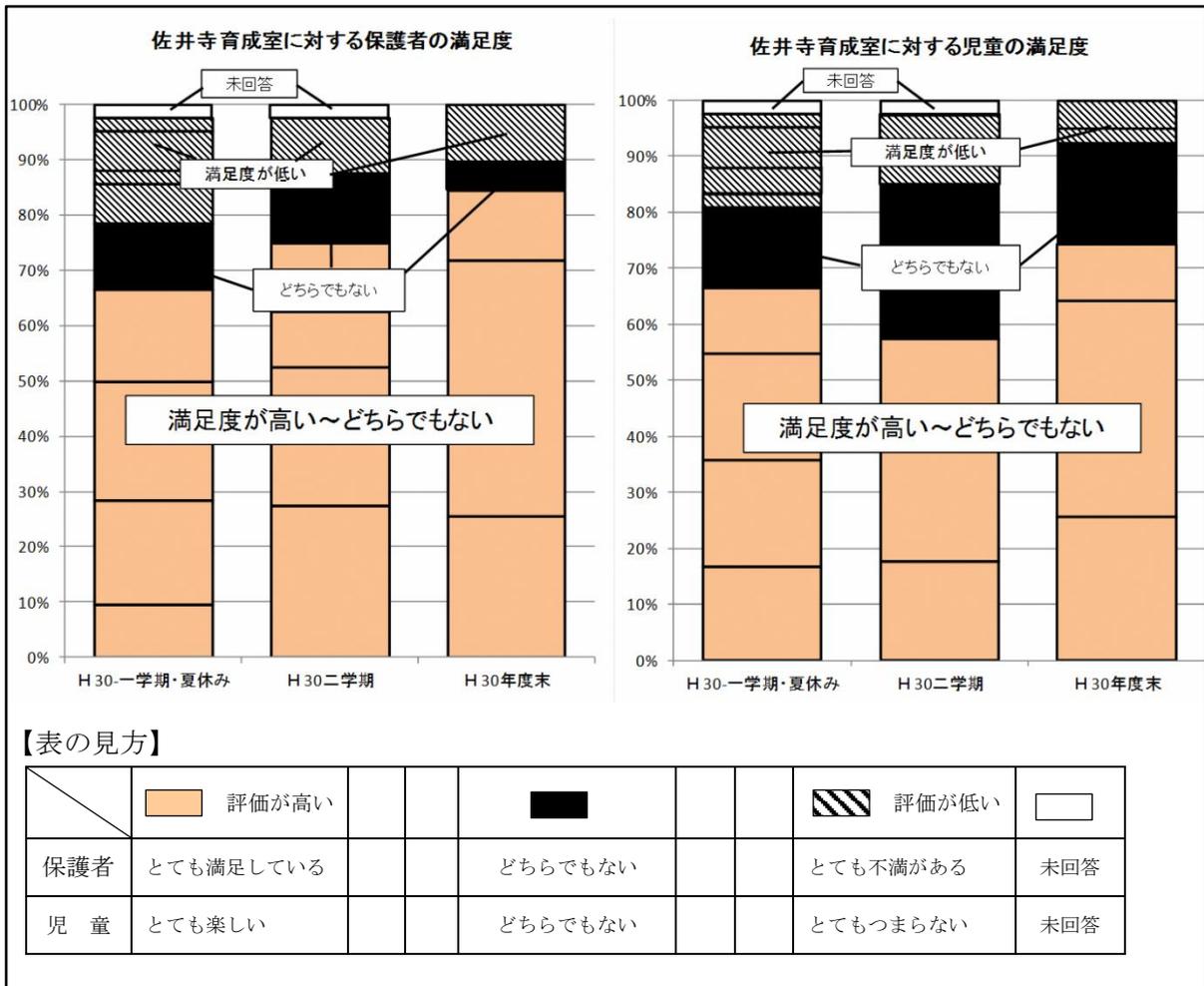
- 6 小学校とも連携が図られており、日常の様子や小学校の行事等の情報が共有されている。
- 7 太陽の広場（放課後子供教室）とも連携が図られており、連携会議に出席して情報交換を行い、運動場で一緒に遊びの活動を行っている。
- 8 怪我が起きた際にも迅速な対応がなされており、病院への搬送、保護者への連絡、小学校への連絡、委託事業者への連絡、放課後子ども育成課への連絡ができていく。
- 9 台風やインフルエンザによる臨時休校や学級閉鎖についても、常に小学校や放課後子ども育成課と連絡をとり、児童に混乱が生じないように努めている。

（2）保護者へのアンケートにおける総合的な評価について

これまでの保護者へのアンケートには、「子ども達にとって佐井寺育成室はどの程度楽しい場所か？」を聞く設問と、「保護者にとって佐井寺育成室はどの程度満足できるものとなっているか？」を聞く設問を設けている。その結果から見える、事業者の運営状況の総合的な評価としては、「保護者や児童からも、概ね高い評価を受けている」と言える。

しかしながら、アンケートではごく少数であるが、「情報が共有できているか不明なことがあった」「連絡ミスが多かった」等、指導員として求められるべき部分できていないとする意見もあり、全体的な評価の良さに楽観視せず、現在の高い評価が落ちてこないように、これからも注意していく必要がある。

【表 7】



5 終わりに

これまでの放課後子ども育成課の職員による視察や保護者へのアンケート等によるいろいろな検証、その他小学校をはじめとする関係機関との日々の連携による状況把握の結果、現在の委託事業者は、平成 30 年度は良好な保育や育成室運営が行われていることが確認できた。

アンケートの自由記述欄においても、「仲の良い友達がいる」「外でたくさん遊べるのが楽しい」「色々な活動について家で話をしてくれる」等、子ども達が育成室を楽しんでいる様子が書かれた記述を多く見ることができ、また、「子どもが楽しく通っているので安心している」「熱心に子ども達の様子を見ていただいている」等、保護者が満足している内容の感想が書かれた記述も多く見ることができる。子ども達と保護者にとって、現在の育成室は「安心できる、楽しい場所である」との認識が広がっている。

現在の委託事業者には、今後とも現在の方針を継続し、保護者、学校、放課後子ども育成課としっかり連携を密にした運営を行い、同時に、普段から子ども達と保護者の声に耳を傾けて、改善が必要などころはないかを丁寧に検証しながら、更なる向上を目指してもらいたい。